

# 高遠城跡に池の痕跡

江戸時代  
絵図基に 庭園遺構調査し確認

伊那市教委

国史跡・高遠城跡（伊那市高遠町）の南曲輪で、江戸時代後期にあったとされる庭園の詳細が明らかになりつつある。伊那市教育委員会は1846（弘化3）年の絵図を基に2025年に調査を行い、ひょうたん型の池の存在を確認。市教委は庭園遺構を高遠城の理解を深める上で重要な成果と捉えていて、かつての姿を把握して城跡の整備につなげたい考えだ。

高遠城は三峰川と藤沢川の

合流点に形成された河岸段丘上に位置する平山城。戦国時代には武田氏による南信州の拠点として、江戸時代には大名の居城として使用された。明治時代に廃城となり、城内の建物や樹木などは撤去。その後は公園となり、現在は校の名所としても知られる。市教委は高遠城の価値を正

め、廃城以前の姿を把握し、可能なものは江戸時代末期の姿を目指して復元整備を進めていく方針。庭園遺構の調査も取り組みの一環となる。

庭園の存在を伝える「御城内引水路絵図」は、10年ほど前に市へ持ち込まれた。月蔵山から城内に水を引くルートを示したものとされ、制作した高遠藩士の子孫が所有していたという。

庭園は、ひょうたん型の池があり、中島を備え、茶室などもあった。水は月蔵山から

引き、滝のような形で池に注いでいたとされる。

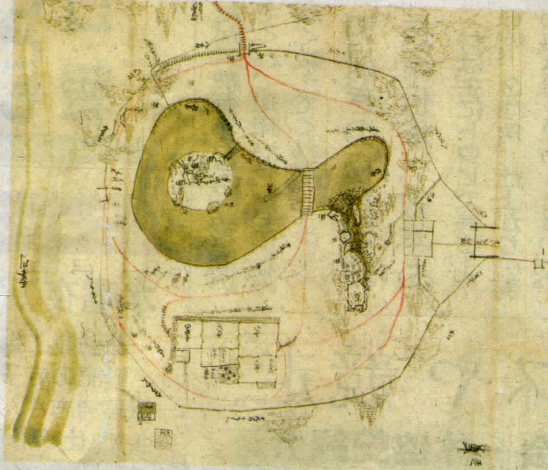
市教委は昨年の10～12月に調査を実施。複数箇所で地面を掘ったところ、池の跡や中島、土坑などが見つかり、南曲輪に池を持つ庭園が存在したことが明らかになった。

池は水深70センチほどだったとされる。底部から「グライ化土」と呼ばれる地面が水に浸かっていたことを示す土が見つかり、一定期間、水があ

ったことが分かった。

12月13日には現地説明会を開き、一般に紹介。地元の70代男性は「こういうものが実際に出てきて、驚き楽しい。調査が具体化して、復元に向けて動きが進むとうれしい」と話していた。

市教委は構造や位置関係、付属施設などに関する調査の



発掘調査が行われた高遠城跡

継続を検討中。担当者は「絵図にあった南曲輪の池の痕跡が見つかり、存在が確実になった。城の理解に非常に寄与する」と期待している。

（小坂和史）

高遠城にあったとされる庭園を描いた「御城内引水路絵図」の南曲輪部分拡大  
伊那市立高遠町図書館寄託資料